

上司のメモが読めず困ったことはありませんか？

写真は、江戸後期の薩摩藩家老調所広郷が、藩主島津齊興に宛てた財政改革等に関する報告書です。調所の書く崩し字は個性が強く、江戸後期～幕末の薩摩藩関係者の中で、最も解読が難しい人物の一人です(個人的見解です)。

さて、調所の字が難しいのは他にも理由があります。写真をよく見ると、墨の濃淡の差が大きいです。言い換えれば、調所はなかなか墨を継いでくれないのです。そのため、個性的な文字に「かすれ」が加わり、時空を越えて私たち学芸員を苦しめるのです。この傾向は、他の調所書状にも通じており、家族や同輩以下に宛てたものはさらに難易度が上がります。

調所の文字を前に私の頭の中では、これは同時代の人でさえ読みづらいレベルではないか？上司のメモが読めなくて苦労したことがあるのは自分だけではないのだ、と調所の部下に勝手にシンパシーを覚えたり、いややはりその業績を考えれば、墨の一滴も無駄にしないこの姿勢が財政改革を成功させたのではないかと、この大胆な崩し方はきっと筆のスピードが速い。せっかちな性格だったのか等々、想像が膨らみます。このちょっと知知的な想像の時間は、とても豊かなものです。

崩し字の難易度や墨の濃淡の情報は、活字化された資料では伝えることはできません。ミュージアムでしか出会うことのできない豊かな時間を探しに、この秋、是非黎明館にお越しください。



学芸員 崎山健文(歴史担当) 調所広郷上書 (2F常設展示に展示中)

黎明館 40年の歴史

黎明館は2023年に開館40周年を迎えます。今年度のたより黎明では、40年の歴史を振り返りながら、各時代の黎明館NEWSをご紹介します。

「大久保利通関係資料」は、大久保利通(1830~1878)が自ら記した日記や手紙、あるいは大久保に宛てられた膨大な手紙などで、明治維新を研究する上で極めて貴重な資料です。現在は黎明館と国立歴史民俗博物館にわけて収蔵されています。

6.8「大久保利通関係資料」国の重要文化財に指定
企画展「重要文化財 大久保利通関係資料」(6.8~8.31)開催

2003	2004	2005	2006	2007
<p>10.3 開館20周年記念特別展「激動の明治維新—世界が動いたその時日本は—」開催(11.3まで)——黎明館NEWS 9</p> <p>10.18 企画特別展記念講演会・シンポジウム「明治維新をめぐる国際情勢と薩摩藩」開催</p> <p>10.21 開館記念日「開館20周年記念誌」発行</p> <p>10.25 黎明館開館20周年記念宝くじ文化講演会「鹿児島への文化へのまなざし」開催</p> <p>12.10 常設展示入館者200万人到達</p>	<p>4.1 2階発券業務廃止</p> <p>6.12 学芸講座開始</p>	<p>4.1 2階発券業務廃止</p> <p>6.12 学芸講座開始</p>	<p>10.5 映画「北辰斜にさすところ」撮影(11.22まで)</p> <p>6.9「鹿児島県広田遺跡出土品」国の重要文化財に指定</p>	<p>10.5 映画「北辰斜にさすところ」撮影(11.22まで)</p>

黎明館NEWS 9 祝!開館20周年

記念特別展 シンポジウム

開館20周年を記念して、記念特別展やシンポジウムの開催、記念誌の発行などが行われました。

黎明館NEWS 10 映画「北辰斜にさすところ」撮影

旧制官立第七高等学校造士館(通称七高)を舞台にした映画「北辰斜にさすところ」の撮影が行われました。かつて七高は、黎明館が建っている場所にあります。当時と変わらぬ姿の石垣を背景にしたシーンや、七高生の銅像「七高生久遠の像」でのシーンなど、撮影は1か月以上に及びました。

黎明館のフカホリ⑥

黎明館で出会う 彫金の世界 「天空への招待」を囲む「南国の詩」 帖佐美行 作

帖佐美行(1915~2002)は、鹿児島県薩摩郡さつま町(旧宮之城町)生まれの彫金作家です。13歳で上京、15歳の時から彫金家小林昭雲に師事し、8年間修行しました。その後、東京美術学校教授海野清の指導を受け、昭和17(1942)年第5回文展で初入選。日展を中心に活躍し、昭和49(1974)年には日本芸術院会員となり、平成5(1993)年に文化勲章を受章しました。

天空への招待

この作品は、第4回改組日展出品作で、中央に大日如来を象徴する木の実、左側に人間を表す鳥を配して、自然を愛し、崇拜する作者の理念を盛り込んでいます。

「天空への招待」を囲む様に、植物や蝶、鳥などのレリーフが設置されています。

市松模様が目を引くこの作品は、隼人の盾をイメージしたものや、綺麗な花などが表現されています。金属でありながら、柔らかく丸みを帯びた、優しい印象の作品となっています。

「天空への招待を囲む南国の詩」の壁の裏(1階常設展示内)には、「薩摩讃歌」があります。

裏にも作品有ります

近くて見てみると...

ここが一緒! ここが違う! 黎明館今昔 常設展示図録

1996年の常設展示リニューアルにあわせて「常設展示図録」が刊行されました。現在までに7回の改訂を行っています。どのよう変遷を遂げたのか、見ていきましょう!

1996.10.21 発行 第1版

1999.3.30 発行 第2版

2004.9.30 発行 第3版

2008.3.30 発行 第4版

2012.3.31 発行 第5版

2016.3.31 発行 第6版

2020.4.1 発行 第7版

2度目の常設展示リニューアルの際に表紙や中のレイアウトを一新しました

100冊の「鹿児島県史料」

9.17 映画「半次郎」撮影

6.8「大久保利通関係資料」国の重要文化財に指定

6.9「鹿児島県広田遺跡出土品」国の重要文化財に指定

2008 黎明館だより「黎明」vol.26 No.2 通算100号

9.1 調査史料室(前身 鹿児島県維新史料編さん所)設置40周年

9.6 開館25周年記念企画特別展「天璋院篤姫」開催(10.17まで)——黎明館NEWS 11

黎明館NEWS 11 開館25周年記念企画特別展「天璋院篤姫」開催

開館25周年、ならびにNHK大河ドラマ「篤姫」放映にあわせて展覧会が開催されました。江戸城大奥や将軍にまつわる華やかな調度や衣装、幕末の激動を伝える歴史資料などが展示され、57000人近い人が観覧しました。

女性のお客さまが多く、大河ドラマの影響の大きさを実感しました。篤姫の嘆願書を読みながら涙ぐむ人がいたり、来場者が篤姫の人生を肌で感じている姿が印象に残っています。

黎明館NEWS 12 「天璋院像」除幕式

彫刻家 中村晋也氏によって制作された「天璋院像」の除幕式が行われました。この日は篤姫の誕生日。徳川家、近衛家、島津家の御当主など多数の関係者が出席し、式典は盛大に執り行われました。

現在天璋院像は黎明館の見どころの一つとなっており、観光客が写真におさめる姿をしばしば目にします。